
文豪 お墓まいり ツアー

10月8日（土）



準備

- ①山崎ナオコーラさんの「文豪お墓まいり記」を読む
- ②日付を決める => 10月8日（土）
- ③誰のお墓参りに行くかを決める => 本の中から2霊園、4人の文豪
- ④参加者を募る => 3人

準備をしておけばよかったもの

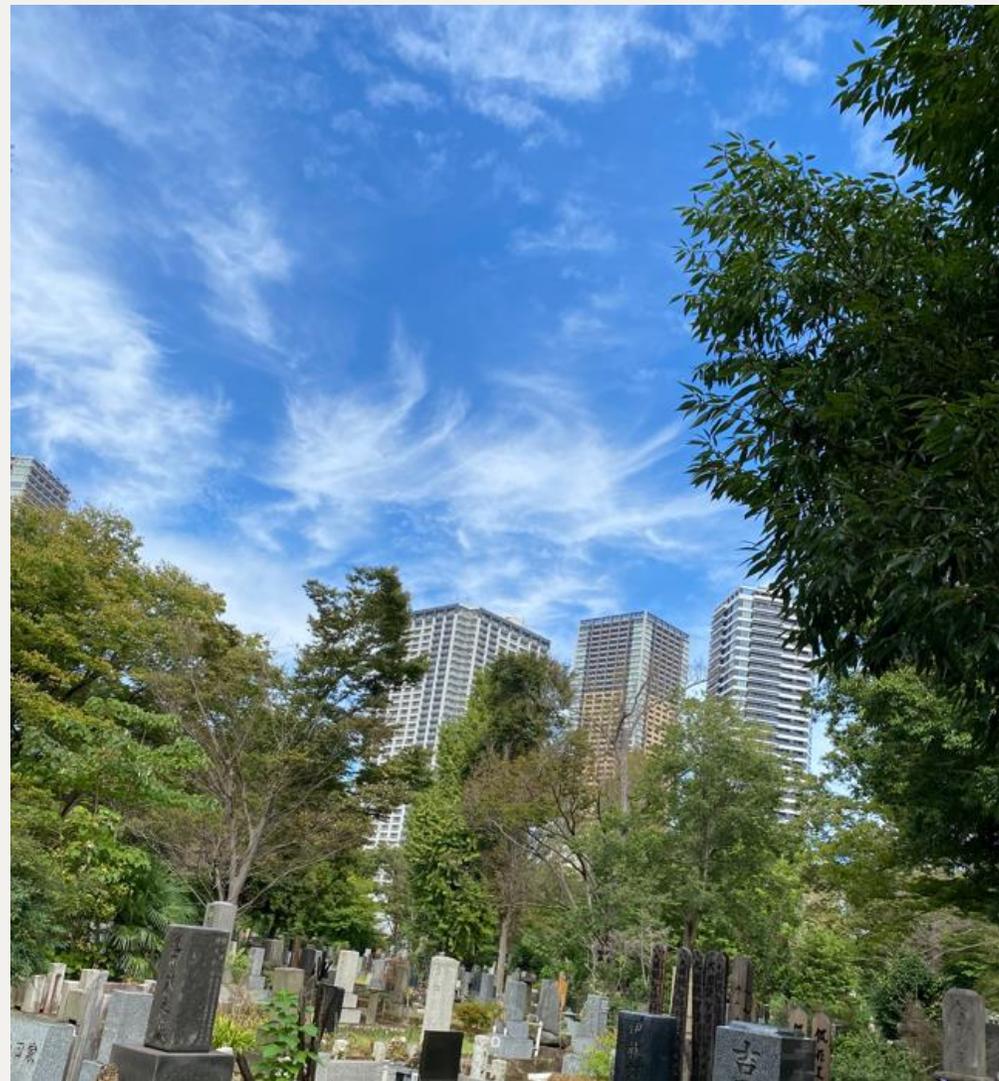
- ①選んだ文豪のことを調べておくこと
=> 本名がわからないとお墓が見つからないということがありました
- ②霊園のことを調べておくこと
=> 他にもたくさん文豪の墓がありました
- ③お花、お線香、ライターは買って持っていくこと
=> 近くで買うと高いです



当日の発見

- ① 同じ霊園に沢山の文豪たちが眠っていた
- ② 全部で12Kmくらい歩きました
- ③ 桜・紅葉の時期はもっときれいだろうと思いました
- ④ どうも、デートスポットであることがわかりました

- ⑤ 途中でお花、お線香をあげるのが面倒くさくなりました
- ⑥ 蚊に刺されました
- ⑦ 全部で16人のお墓にお参りしました
- ⑧ 文豪でない著名人もついでにお墓参りしました





谷中霊園

JR日暮里駅から徒歩1分

- 獅子文六（岩田）
- 色川武大・阿佐田哲也
- 徳川慶喜
- 宮城道雄
- 渋沢栄一
- 円地文子

東京都谷中霊園案内図

谷中霊園のあらまし

谷中霊園は、主として谷中天王寺の敷地等を東京府が引き継ぎ、明治7年9月1日谷中墓地として開設したものである。その後、明治22年東京市に移管、昭和10年には谷中霊園と改称現在に至っている。

園内は、東側が全体に傾斜しているほかは平坦である。また墓域は点在する古木や中央通路の桜並木とあいまって比較的静寂である。春には桜並木が美しく、多くの人出がある。

付近には寺院も多く寛永寺や天王寺の墓地と入り組んでおり、霊園全体の形は複雑になっている。幸田露伴の小説で有名な谷中天王寺の五重の塔跡地が霊園の中央にある。この跡地のほか3か所の墓所が都の文化財に指定されている。(裏面※印)

なお、昭和32年都市計画公園として計画決定されたため、昭和35年8月以降返還墓所等の再貸付は行っていなかったが、平成19年度から47年ぶりに再開され、現在、霊園再生事業が実施されている。

面積 102,537㎡

開園日 明治7年(1874年)9月1日

施設の種類	利用者数	埋葬体数
一般埋葬施設	6,396人	52,774体
立体埋葬施設	1,132人	3,578体

(令和2年1月1日現在)



